

輸出事業計画

※申請者名：いしのまき農業協同組合、品目：コメ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- 管内は宮城県北東部に位置し、水田に適した平野が広がる県内有数の穀倉地帯。
- 国内の人口減少や海外における日本食人気等を踏まえ、将来の販売拡大が期待される海外市場へのコメ輸出を積極的に行う必要性を感じ、平成30年にシンガポールにコメの輸出を開始。
- 輸出事業者等と連携し、海外ニーズを聞きながら販売計画を策定。輸出先国は、シンガポール、アメリカ、アラブ首長国連邦、ポーランドと拡大し、レストラン等の業務用や現地スーパーで家庭用として販売。
- 粘りや甘みのトータルバランスに優れた「ひとめぼれ」を輸出。輸出用米は、国際GAP認証を取得した農場で生産したものに限定し、カントリーエレベーターで区分管理して品質を保持。

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
輸出量（t）	143	215	219

【課題】

<生産段階>

①再生産可能な所得確保

現地の低価格米との価格競争から、低価格で安定した品質のコメの供給が求められており、輸出用米の生産に取り組む農業者の所得確保が課題

②生産量の確保

直播栽培の収量確保が課題。また、現在、輸出用米は国際GAP認証取得に限定しているが、海外ニーズに応じた商品展開と大ロットでの輸出に向けて、輸出用米生産に取り組む農業者の確保が課題

<販売段階>

- 現在、輸出用米は国際GAP認証取得に限定しているが、さらなる販売拡大に向けて、海外ニーズを踏まえた上で、国際GAP米以外のコメの販売も対応していく必要

2. 輸出事業計画の取組内容

<生産段階>

- 担い手経営体の大規模化や農地の集約化、堆肥利用による肥料費の低減、直播の導入等により低コスト生産に取り組む。
- 直播栽培の現地研修等を実施。また、農業者に対し、国際GAP認証の理解醸成を推進するほか、海外ニーズを踏まえて特別栽培米や慣行栽培米を含めた生産量の確保を図る。

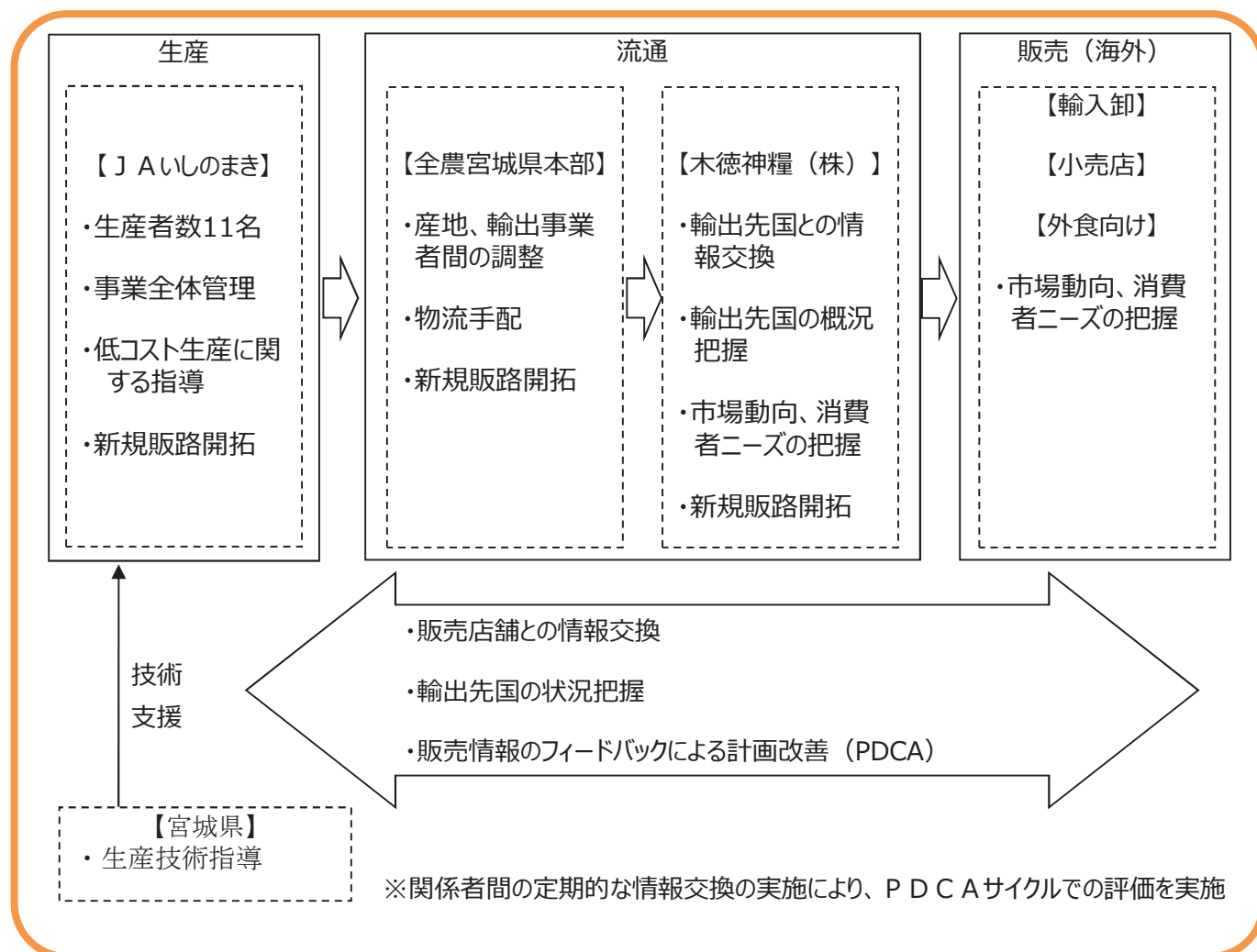
<販売段階>

- 海外ニーズを応じて、国際GAP認証米のほか、特別栽培米、慣行栽培米も輸出用米に加え、用途に応じた価格、大ロットでの販売を行い、取引量の増加を図る。

輸出事業計画

※申請者名：いしのまき農業協同組合、品目：コメ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

	現状 (令和2年度)	目標年 (令和7年度)
輸出額（百万円）	35	161
輸出量（t）	219	1,000
輸出先国	シンガポール、アメリカ、 ポーランド、 アラブ首長国連邦	香港、シンガポール、 アメリカ、ポーランド、 アラブ首長国連邦